



開花後 25 日, 収穫目安

——永田 茂穂

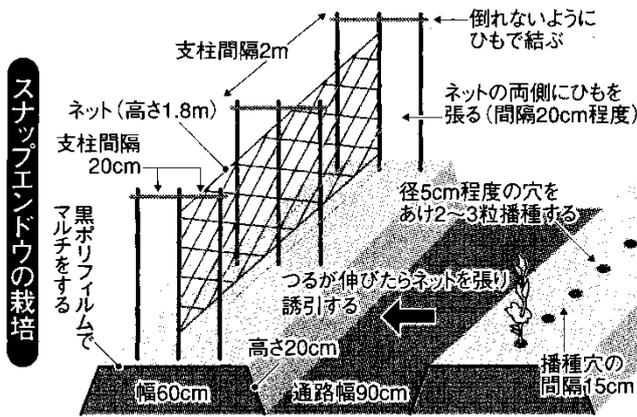
マメ科の1年生草本，原産地は中央アジアから中東地方で，日本へは昭和50年代にアメリカから導入されています。別名「スナックエンドウ」とも呼ばれ，大きくなった子実をさやごと食べるエンドウです。

子実が大きくなっててもさやが軟らかく，たいへん甘味の強いことが特徴です。さやは肉厚で歯切れが良く，緑色が鮮やかです。栄養価が高く，糖分やタンパク質，カリウム，カルシウム，鉄，ビタミン類のほか，食物繊維などを多く含みます。和風，洋風，中華とあらゆる料理に利用され，調理も簡単です。

スナックエンドウには「つるあり」と「つるなし」の品種があります。ここでは，「つるあり」を用いた秋まき冬春どり栽培を紹介します。

生育適温は12～18度で，25度以上，2度以下では落花や結実障害が発生し，氷点下2度以下では心止まりします。このような特性から，降霜の少ない地域では冬どり栽培が，冷涼な地域では春どり栽培が適します。

播種期は無霜地帯で9～10月，降霜



地帯で10～11月です。連作障害が激しいので，4～5年マメ類を栽培していないほ場で，日当たりが良く，肥沃で排水の良いほ場を準備します。播種の1週間前までに1平方メートル当たり堆肥2kg，苦土石灰100g，化学肥料70g（3要素15%の場合）程度を施し，できるだけ深く耕うんします。なお，化学肥料はうねの位置に施します。幅60cm，高さ20cm程度のうねを作り，黒ポリフィルムでマルチをします。栽植密度は，うね幅150cm，播種穴の間隔15cmで1穴2～3粒ずつ，3cmの深さにまきます。

つるが伸びたら，ネットを張り誘引します。20cm程度の間隔で水平にヒモを張り，枝の垂れ下がりを防ぎます。また，つるはネット上段位置で摘心します。弱い霜は不織布などで覆うと防げます。なお，季節風害を避けるため防風垣を設置します。花が咲き出したら，1カ月程度の間隔で追肥（20g）をします。

開花後25日程度，実エンドウのように子実が肥大し，さやが鮮緑色のときに収穫します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成23年（2011）1月13日（木）／南日本新聞